



JAPAN WOOD DESIGN  
AWARD 2015

# ウッドデザイン賞 2015

(新・木づかい顕彰)

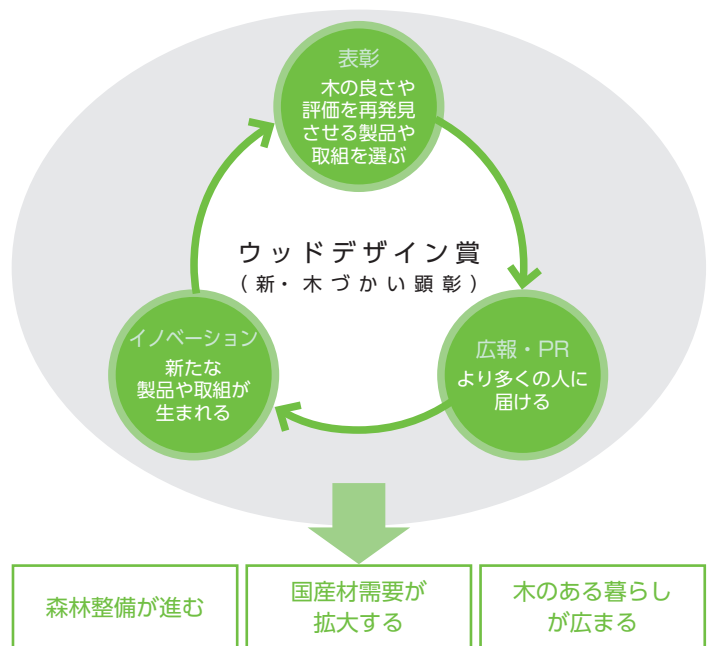
JAPAN WOOD DESIGN AWARD 2015

## ■ウッドデザイン賞の目指すもの

我が国においては、戦後造林した人工林が本格的な利用期を迎えており、適正な森林整備を進めていくためには、国産材の積極的な利用を促進していくことが重要です。

ウッドデザイン賞は、「木」に関するあらゆるモノ・コトを対象に、暮らしを豊かにする、人を健やかにする、社会を豊かにするという3つの消費者視点から優れた製品・取組等を表彰するものです。

これによって木のある豊かな暮らしが普及、発展し、日々の生活や社会が彩られ、木材利用が進むことを目的としています。



## ■応募対象分野

①建築・空間・建材・部材分野	店舗、施設、オフィス、住宅、建材、部材等
②木製品分野	家具、インテリア、食器、日用品、雑貨、文具、おもちゃ等
③コミュニケーション分野	ワークショップ、プロモーション、人材育成、ビジネスモデル等
④技術・研究分野	技術、研究・調査、試作品等

## ■表彰部門

### ライフスタイル デザイン部門

木を使って  
暮らしの質を  
高めているもの

木を使うことで機能性や利便性を高めている、新しい領域で木の活用が提案されている、消費者に木のある豊かな暮らしを提案している、建築、空間、木製品、取組、技術・研究など。

### ハートフル デザイン部門

木を使って  
人の心を豊かにし、  
身体を健やかにしているもの

木を使うことで快適性を高めたり、五感や感性に働きかける、リラックス効果や健康増進効果がある、作り手や担い手のストーリー性を伝えている、建築、空間、木製品、取組、技術・研究など。

### ソーシャル デザイン部門

木を使って  
地域や社会を  
活性化しているもの

木を使うことで地域や森林の活性化に貢献している、持続可能な森林利用の仕組みを生み出している、木材利用の意味を啓発したり、人材育成をしている、建築、空間、木製品、取組、技術・研究など。

## ▲最優秀賞(農林水産大臣賞)

「みんなの材木屋」発  
森と暮らしを創る六次産業化モデル

株式会社 西栗倉・森の学校



欲しい暮らしを自分でつくる人のために、材木のダイレクトマーケティングにより新たな市場開拓をする取組。材木規格の再定義やわかりやすい木材等級、購入者自身が手を加える半完成品のプロダクトや内装やインテリアをつくるノウハウのオープン化など、消費者視点での製品開発、木材購入ができる仕組みを構築した。森を育てた人と暮らしをつくる人を繋げてワクワクする「森と暮らしの未来」を目指す。

## 最優秀賞(農林水産大臣賞)は西栗倉・森の学校

「ウッドデザイン賞2015」の表彰式が昨年12月10日東京ビックサイトで行われたエコプロダクツ展にて開催されました。ウッドデザイン賞は①暮らしを豊かにするライフスタイルデザイン②人の心を健やかにするハートフルデザイン③地域を活性化するソーシャルデザインの3部門を設け、審査委員長をプロジェクトデザイナーの赤池学氏、審査委員を、建築家の隈研吾氏、プロダクトデザイナーの益田文和氏、アーティストの日比野克彦氏、慶応大学教授の伊香賀俊治氏等が務めました。

今年度の総応募数は822点、書類による1次審査、審査委員による2次審査を経てウッドデザイン賞を受賞し

た397点の中から最終審査が行われ、最優秀賞(農林水産大臣賞)1点・優秀賞(林野庁長官賞)各部門3点・奨励賞(審査委員長賞)各部門10点の上位賞が発表されました。

最優秀賞は(株)西栗倉・森の学校「『みんなの材木屋』発森と暮らしを創る六次産業化モデル」。西栗倉・森の学校は、木材流通を消費者目線によって再構成し、暮らしの中の木づかいを身近にした先進性ある取組であるとして評価されました。

今後ウッドデザイン賞の受賞作品は各地域で実施される展示会や交流会などで展示、受賞作品を全点掲載した冊子の製作・配布等によるPRが行われます。

◇ウッドデザインに関する最新のイベント、展示情報など、随時、更新しています。

<https://www.wooddesign.jp/>